

「共生社会の実現に向けて」

副校長 小川達夫

酷暑の夏がようやく終わり、朝晩は秋の気配が感じられるようになりました。2学期が始まり一か月が経ち遠足や校外学習が実施され、今後予定されている行事の準備も着々と進められています。

さて、本年3月に策定されました東京都特別支援教育推進計画第二期第3次実施計画には、共生社会の実現に向けて、障害のある子供と障害のない子供が共に学び、体験し、相互理解を深めることが重要であるとされており、インクルーシブな教育の更なる推進に向けたさまざまな取り組みが計画されています。特別支援学校と地域の小・中学校及び高等学校等との交流及び共同学習や副籍制度の充実による交流活動の推進など、これまでも行っている取組ですが、今一度その趣旨に立ち返って、さらに取り組みを充実させていくことが求められています。

この夏、本校主催の公開講座で、「一人一人のウェルビーイングの向上と共生社会の実現に向けた交流について～学校間交流及び副籍交流の実践をとおして～」と題して、帝京大学教育学部准教授でいらっしゃいます中村晋先生のお話を伺いました。中村先生には、共生社会の実現に向けて、学校間交流及び副籍交流の実践を通して、これまでの交流活動の変遷や課題整理、障害理解や相互理解に向けた学びなどについて幅広く御講演をいただきました。また、本校は、今年度、東京都教育委員会から指定を受け、副籍制度の充実による交流活動の推進検討委員会に参加をしており、副籍制度の更なる充実を図るため、副籍交流の事例集などを作成していく予定です。中村先生からの御助言を受け、早速、副籍制度で直接交流を行った児童・生徒からその都度アンケートによる聞き取りを行い、より充実した交流活動ができるように改善しました。これからも地域の学校との交流及び共同学習や副籍制度による交流活動の充実を図り、共生社会の実現に向けた取り組みを推進していきたいと考えております。

中学部作業学習について

中学部主任 松村美華

本校中学部の作業学習は「縫工班」「食品加工班」「紙工班」「清掃班」の4つに分かれて活動しています。生徒の適性を見て、班編成を行います。それぞれの生徒が1年間同じ作業班で活動し、3年間で3つの作業班を経験できるようにしています。班ごとに活動内容の違いはありますが、「働く意欲」を育成することを共通の目標として、活動しています。なぜ、私たちは働くのか。まずは生活のためです。しかしそれだけでは、仕事は長続きしないと考えます。中学生段階で感じてほしいこと、それは「やりがい」「人とのつながり」です。それらを感じられるように授業の中で活動内容や評価の仕方に工夫をしながら指導をしています。新たな取り組みとして、今年度は11月8日の土曜授業参観で、作業製品販売・発表を実施します。生徒が保護者や本校関係者の方から直接評価してもらえる貴重な時間になります。ぜひ多くの皆様の参観をお待ちしています。

中学部での学習が、高等部の学習でさらに深められ、将来の職業生活や社会自立に必要な力へとつながっていくようにこれからもアップデートし続けながら作業学習をすすめていきます。